

# 森林レンジャーあきる野新聞

**Shinrin RANGER**

あきる野

Vol.39 2013年9月号

発行：森林レンジャーあきる野

## 第3期 森の子コレンジャーの一日（8月）



真剣にカウント中

8月の活動は「どんぐりの豊凶調査」を行いました。今年から、レンジャーがどんぐりの豊凶状況を継続して調査していきますが、そのための基礎データとなる重要なものです。調査方法は、30秒内で目にするどんぐりをカウンターでカウントし、得られたカウント数を平均しました。「カウントすることが楽しい！」子ども心をくすぐる調査でしたが、実が枝の先端部分に3～6個まとまってついていること、はっぱの特徴、実はまだ緑色で小さいなどの発見がありました。

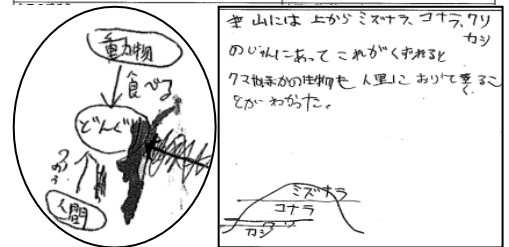
レンジャーからこの調査の意味、多様な野生動物が暮らすあきる野の森のことなどを聞いた後は、それぞれ興味をもったことや疑問に思うことを調べ活動報告書にまとめました。

今回は10月。どんぐりはどうなったのか??もう一度調査です!

### 活動報告書（抜粋）

今日のこと  
 どうしてミズナラたけりてはな  
 いりて、いつ実か出来る  
 のではなく、4～5こ  
 ずつ実かなるのか。  
 動物にして、しせんにてき  
 いる木や実と人間がつえた。  
 木では、実や木はどつるの  
 があつていいのか。

どんぐりの木の実を動物  
 が食べて、動物  
 たちは生きて行ける。



### 今日の感そう

どんぐりが生き物に食べられて実を落とすとして生きて実を落とすとして  
 日々にも感じました。生き物がしつかり産卵かして生るように  
 ばらばらしてスギをうるうるなやのやいのやえなあした方がいとい  
 心がう悪いまじた。

## どんぐり豊凶調査について

随分立派な大きさに生長したどんぐりですが、このまま無事に熟す訳ではありません。若いどんぐりはムササビの離乳食に使われたり、8月中旬からチョッキリやゾウムシの仲間（昆虫）が産卵し地面に落とします。この落とされたどんぐりも森の誰かに利用されるでしょう。こうして森ではどんぐりが熟す前から多くの利用者がいて、無事に熟したどんぐりはツキノワグマやシカ、イノシシ、サルなど多くの野生



昆虫が地面に落としたミズナラ

動物に利用されています。一方どんぐりは、一部の野生動物の貯食する習性を利用して種まきをしてもらっています。

ドングリは年ごとに豊作不作がバラバラで、ドングリが凶作だった昨年の冬は、ツキノワグマの目撃が相次ぎ、キウイ棚や人家のゴミ箱を荒らすなどの被害がありました。どんぐりの豊凶は野生動物が人里へ下りてくることと関係しているかもしれない…早めに豊凶が分かれば、人間の行動に注意喚起することができます。森で食物が得られない野生動物に“人間の領域に出てくると危ないぞ!”と認識してもらうことは難しいかもしれません。私たち人間の生活を守るために「未収穫の果実を収穫する。」「ゴミ箱や生ごみなどの野生動物を人里へ誘引する物を野外に放置しない。」という意識に変えることはできると思います。

そして、その行動が野生動物を守ることにもつながるのではないのでしょうか。

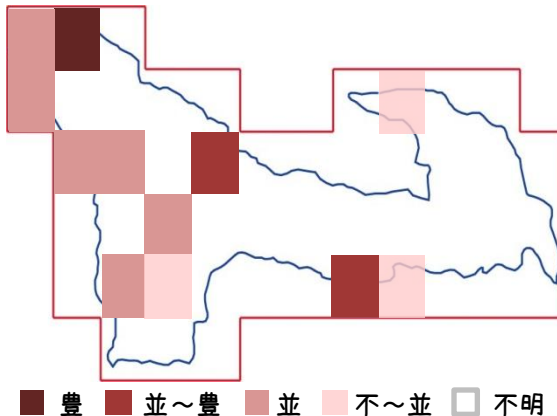
(加瀬澤)



次世代が育っています

調査したどんぐりは、全体の平均をとると並作。奥山の尾根沿いや日当たりのよい場所では比較的並～豊作でした。調査にご協力頂いた小学校の先生ありがとうございました!

## どんぐり豊凶状況（2013. 8月現在）



得られたカウント数を平均する調査を毎年実施していきます。この表は、森のどんぐりを目測で判断しメッシュで表したものです。  
 豊作…樹冠全体に密に結実  
 並作…樹冠全体に疎に結実、又一部で密に結実  
 不作…まばらに結実



# 森の奥、沢の奥



鈴ヶ尾沢の美しい3番目の滝。現在、市内では139箇所の滝を確認しました。

あきる野の山には、作業道などの古い山道が数えられないくらいあります。その中には、何年も、何十年も使われていない道が多く、現在では道の存在がはっきりしない状況の場所も見られます。

奥山の森や沢を調べる時は、なるべくこれらの作業道などを利用し山登りを行います。道が消えてしまいはっきりしない時はGPSや自分のセンスに任せ、調査の目的によって歩くルートを決めます。但し、このように山を歩くことは、自身を危険にさらすこともあり、事前に昔の資料や現在の地図などで状況を確認するなど、注意する必要があります。

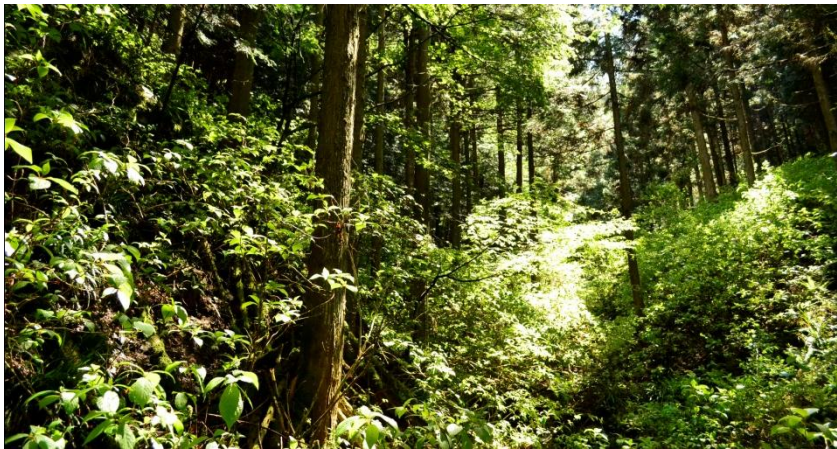
現在、沢登りなどを行う最も重要な目的はクマの調査や滝の調査です。特にツキノワグマについては、あきる野に生息する個体数や主な移動ルートなどを解明する必要があり、奥山の生息場所で見られる痕跡などを調査することが重要です。クマハギなどが集中している場所は調査を進める上で、最も役立つヒントを与えてくれます。そして、この数年間の結果から、正確な生息状況がやっと見えてきました。



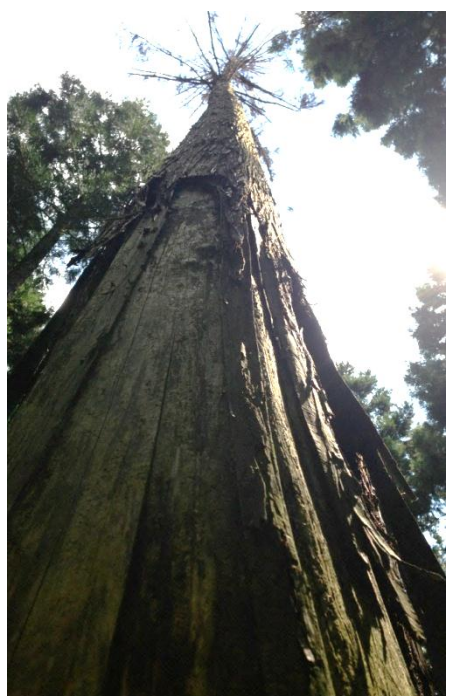
市内西部の溪流に生息するヒダサンショウウオ。光の当たり方により、美しい紫の体色に金色の点を現す、めったに出遭えない両生類です。

昨年冬、人里でクマの出没が相次ぎ、やむなく捕殺される事態となりました。このような事が再び起こらないように願いながら、調査を行っています。正確な情報が得られることで、今後のクマ対策などに、適切な行動ができることを期待します。

今年5月、上養沢でセンサーカメラを使用した調査で映ったツキノワグマの若い個体。



長い間、手入れがされていない植林は市内で多く見られます。沢や尾根にあった道は荒れてしまい、夏期は下草が多いため、森歩きは困難です。



クマハギにより枯れてしまった杉の木。近年、この様な枯木が急に増加しています。

[パブロ]



森っこサンちゃん